パルシステムとは、人と人との助け合いが原点です。

パルシステム生活協同組合連合会

●普及指導員派遣研修の狙い

1. 私たちの想い(理念)と事業の概要

私たちは35年の歴史を踏まえ、農薬・化学肥料を多用する農業から、生態系を豊かにし、資源循環型・環境保全、自給率の向上を目指す持続的な農業生産方式を主流とした農業に転換することが日本の農業再建、食の安全確保であるとした食料・農業政策を事業の柱として進めています。

その想いを次のように理念として明文化して組合員全員の共有化を図っています。

＜理念＞
心豊かなくらしと共生の社会を創ります。

- 組織理念及び事業理念として掲げ、大切にしてきた「多様性の共存」、「組合員の参加」「社会に開かれた運営」、「環境と調和した事業」の考え方は、将来にわたって受け継いでいきます。
- 「心豊かなくらし」パルシステムは、物質的な豊かさだけではなく、心の豊かさや安らぎとくらしの質、そして人と人の結びつきを大切な価値として求めていきます。
- 「共生の社会」パルシステムは、自然と人との共生を基本において、地域や属性を越えた人と人との共生、そして現在と未来との共生をめざし、人と人とが助け合う社会を実現します。

私たちの事業

＜私たちの事業＞
私たちパルシステムは、生協の原点である「人と人との助け合い」を21世紀型システムとして進化させ、おこなう事業全般を独自の考え方の「個人対応型くらし課題解決事業」と位置づけています。組合員の生活のなかでおこる、さまざまな「困ったな」を商品・サービス・情報を通じてサポート。「組合員が10人いれば10通りのくらしがある」という考えのもと、それぞれのくらしに対応できる仕組みづくりをおこなっています。

2. 受け入れの狙い

私たちはこのように、いくつかの事業を展開することで生協としての理念の具現化を図っております。しかしながらその為には商品を頂く（購入する）側だけでなく商品を生産・供給して頂く農家や農業団体の人たちをはじめとして、私たちと係り合いのある人たちすべてにおいてこの理念の共有がなければこれらの事業は成り立ちません。当然、生産者である農家の支援活動を現場で行われている普及指導員さんにもご理解を頂き、消費と生産すなわち川上と川下の仲立ちをして頂くことを期待しております。

この度の普及指導員さんの研修受け入れについてはこうした点に狙いを定めて

①農産物、農産加工品等の商品を頂く側として、生産者等供給側の方たちへの指導、支援活動を主業務とされる普及指導員の方に、パルシステム生活協同組合連合会（以下パルシステム）が求める農産物や加工品がどんな基準で調達されているのかを理解して頂きます。

②その為に、生協の経営理念、意思決定の方法等から、供給される商品に対する品質基準、安全性確保

パルシステム研修のプログラム　実施期間：平成23年11月15日～18日

第1日（火）	第2日（水）	第3日（木）	第4日（金）
9:30 集合 10:00 実地研修オリエンテーション ・事業について FACO加藤 ・カリキュラム 小林課長 10:30 講義山本伸司理事長「パルシステムの歴史・理念・ビジョンについて」 12:00 質疑応答	8:00 津田沼駅集合 8:30 車中にて和郷園視察に関しての予備講義 講師：FACO加藤 10:10 講義 「和郷園の事業概要」 講師 伊藤忠明課長 10:50 カット野菜・出荷場見学 11:20 リサイクルセンター視察	9:45 東川口駅に集合 10:30 講義 講師 野村和夫専務 「ジ―ピーエスの役割・機能について」 11:15 質疑応答 11:30 講義 講師 工藤友明本部長 ジ―ピーエスの販売機能と産地政策について」 12:15 質疑応答	9:30 パル本部に集合 10:00 普及指導員全員による特産品の模擬セールス プレゼン 15分 質疑応答 5分 ①石川県 トマト 現物あり ②鳥取県 日本酒現物あり ③愛媛県 干柿 現物あり ④長崎県 ハウスびわ ⑤宮崎県 キンカン（生・加工品） 現物あり パルシステム対応者 高橋英明課長、 堀籠克衛人事部長他
12:30 昼食 13:30	12:00 直売所風土村にて 13:00 昼食（和郷園直営）	12:30 昼食 13:30	
13:30 講義 高橋宏通部長「パルシステムの食料農業政策について」 15:00 質疑応答 15:30 休憩 15:45 講義 高橋英明課長「パルシステムの商務機能について」 16:45 質疑応答 17:45 本日の振返り FACO 18:30 交流会	13:10 例糖野菜工場視察 14:15 契約農家の圃場視察及び質疑応答 15:10 和郷園併設のザ・ファーム視察（農業宿泊体験施設） 16:100 車中にて本日の振返り FACO 加藤 18:00 津田沼駅にて解散	13:30 センター内視察（納品から出荷まで） 14:30 質疑応答 15:00 休憩 15:15 講義 講師 畑信彦品質管理課長代理 「放射能に対する考え方について」 16:15 質疑応答 16:45 本日の振返り 17:30 終了	

等の業務管理体制及びその実際を学んで頂きます。
③もって、パルシステムと生産者の連携を促進するための現地側(川上）とのコーディネータとしての活動を期待します。

●実施準備･検討段階で留意したこと

1. FACOにおける実施準備･検討段階

①パルシステムにお願いしたこと

パルシステムには、普及指導員の受け入れをお願いする際に、普及指導員は農産物の栽培等に関する専門家ではあるが、いわゆる販売に関しては全くの素人に近い。今まで自分の作った農産物等をお客さんに**「買ってください」**という言葉を一度も口にしたことが無い人がほとんどであります。従って、今回の研修でカリキュラムを策定する際には、パルシステムが受け手（買い手）の立場で何を基準として商品を供給（組合員へ）しようと考えているのか、その意思決定方法や産地に何を望むのかといった視点での内容になるよう心がけていただきたいとお願いをしたところです。

②研修コンセプト**「敵を知る」**を参加者へ事前に徹底

六次産業化とか農商工連携事業等の施策により、新製品開発やその導入により農家の収入向上や経営の自立化等が指向されているところですが、最大の課題としては、作っても売り先がない、という事例が多く見られます。普及指導員の日常的な業務は、どちらかというと物づくりに力点が置かれており、販売面での知識、経験が乏しいといえます。ものを売るには、先ず買い手が何を考えて商品を調達しようとしているかを知る必要があります。商工では当たりまえですが、それには先ず“敵”が何を考えているかを知る必要があります。

今回、私たちの大切なお客様である生協のパルシステムのご協力を頂くことにより、その点をすべてオープンにして頂けることになりました。この機会に日ごろ接する機会がない生協、生協関係者の方々から直接お話を聞いたり見たりして、物づくりだけから販路を見据えた幅広い支援活動ができる知識を修得して頂きたいと考えました。

また、最終日には、実際に商務担当者に農産物の売り込みをしていただく実習カリキュラムも入れさせていただきました。

以上のように、今回の研修目的は座学によるマーケティングの勉強とか製品開発のあり方を学ぶといった知識教育でなく、生協と付き合うには何をすべきかを自分で学びとってもらうことにある旨をメール等で徹底させていただきました。

2.パルシステムにおける実施準備･検討段階

①受入体制の確立

５名の研修生を受け入れるに当たり、理事長、専務理事と言った幹部の方々のご理解のもとに、パルシステム組織全体で取り組んで頂いきました。具体的には人事部長のもとで人材開発室の課長及び担当者１名をこの事業のために配置をして頂きました。(CSRの一環として全面的に協力をいただきました)

②カリキュラム編成

カリキュラムに関しては、本事業の目的に添うべくこの２名のご担当者で編成して頂きました。講師としては、理事長をはじめとしてそれぞれの責任者自らが当たって頂くことになりました。総勢（関連会社含む）で９名、社外３名となりました。(幹部の方ばかりなので日程調整が大変だったようです)

パルシステムを総合的に理解をしてもらうために、本部における講義だけでなく、商品調達機関であり、物流も手掛ける関連会社や、実際にパルシステムと取引のある企業が生協と付き合うに際して何に留意して、どんな対応をしているか、どんなメリットがあるかを聞いてもらうために、主要な仕入先である和郷園等への視察・研修も取り入れて頂きました。また初日の夜には、人事部長主催の交流会も設営して頂き、一堂温かい受入体制に感激をしました。

和郷園の契約農家から
ホーレン草の栽培方法や
取引条件等を聞く

青果物の調達等を担当する
関連会社㈱ジーピーエスの
センター視察

●研修の実施状況

1.「今日の振返り」の実施

研修の成果を実りあるものにするために、
①その日の最後にFACOから15分程度の総括をいたしました。
②また、その日のカリキュラムごとの感想を研修生に翌日までに書いて提出して頂きました（記入用紙はFACOが作成）。これをコピーして、前日の講師に見て頂くように事務局にお願いをしました。
③そのほか、FACOは毎日の講義録をその日のうちに作成して翌朝全員に配布をいたしました。

2.補助教材の提供

講義内容や視察先の案内書等はパルシステムの事務局の方に作成をして頂きましたが、関連するデータや資料等は入手できる範囲内で事前に用意して当日配布をいたしました。また、移動する車中にてFACOよりそれをもとにプレゼンを行い時間を有効に活用しました。

移動する車中にてプレゼンをしている様子

3.売り込みの実習

本研修のハイライトの一つに、研修生が持参した農産物を直接売り込みを掛けるといった実習が企画されていました。商務の担当者からは、実際の商談さながらにいろいろな角度からの質問が浴びせられました。研修生のなかには、栽培担当ではない人もおり、皆さんそれぞれに苦労をされていましたが、勉強になったことが多かったことと思います。商務の高橋課長から、パルシステムが新規に取引きを開始するための要件としては、先ず売り込みに際しての“人”を見ます。私たちは、ただ単に商品が良ければすぐ頂くということはいたしません。私たちが、その商品を頂くことでそれを作っていらっしゃる生産者のかたが、そしてその地域の人に何がしかの貢献ができるかどうかを判断の基準にします。そして地域協定を結んでお互いの立場を尊重してから本格的に取組を開始するのが原則です、といった説明を聞いてパルシステムのなんたるかの一端を垣間見た感じがいたします。

売り込み実習の様子

●研修の結果（アウトプットとアウトカム）

研修終了直後に頂いた感想文では、皆さん一応に従来の研修とは全く違った充実感を述べています。パルシステムで事務局を務めて頂いたお二人への感謝と同時に、講義や質疑応答時に、本来なら開陳されることが無いような微妙な質問にも、すべてオープンにしていただいたことには新鮮な驚きを覚たようです。

山本理事長をはじめとし、皆さんが事業と運動の一体化の実現への熱い想いを語られるのを聞いて、初めて生協の何たるかを知ることができたと推測いたします。そうしたことから、今回の研修の目的である“買い手”を知る、といったコンセプトでの研修の目的は達成できたものと言えます。

最後に、課題としてはこうした研修を継続的に実施することが肝要ではあるが、パルシステムのように、ここまで協力を頂ける企業、団体を発掘できるかがあると思われます。

初日に山本理事長から熱い想いを伺いました

和郷園のバイオマスセンターにて
金森さんの乗っているバイクは、当センターで生産されるメタンガスで走るモデル車両
（左から、小神野さん（パルでお世話を頂いた人）、大渡さん、小林課長（パルでお世話を頂いた人）、加藤、金川さん、金森さん、山名さん、西田さん、阿部顧問）

文：民間企業等民間派遣研修
〔パルシステム生活協同組合連合会担当〕
食と農研究所
代表　加藤　寛昭（食農連携コーディネーターFACO）

◇　◇　◇